

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03423

研究課題名（和文）八丈語の保存・継承のための総合研究 - 辞書・教科書・映像資料を作成する -

研究課題名（英文）Comprehensive study for preservation and generational continuity of the Hachijo language: creating dictionaries, textbooks and video materials

研究代表者

金田 章宏 (KANEDA, Akihiro)

千葉大学・大学院国際学術研究院・教授

研究者番号：70214476

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,500,000円

研究成果の概要（和文）：本科研では八丈町民と八丈町教育委員会の協力を得ながら、八丈町内5地区で、動植物語彙を中心に446項目について地区ごとの方言名、生活での役割等について調査し、全項目カラー写真付きの『八丈語の動植物語彙調査報告書』を作成した。また、八丈町内5地区の方言による民話（「欠け皿」「たなばたさま」「人捨て穴」）の字幕付き動画を作成し、DVDにして各所に配布した。語彙調査や録画作成には地元の方たちの協力を得ることで八丈語の価値を再確認してもらうことができた。また、簡易版の方言文法書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユネスコにより消滅の危機に瀕した言語とされた八丈語の記録保存継承作業は重要な意味を持つ。本科研では動植物語彙の方言名だけでなく生活のなかでの役割なども詳細に記録することで、血の通った生きた方言として後世に伝えていくべき資料とした。また、これまで1地区のみだった民話資料について、島内5地区の方言で動画を作成し、記録保存継承の貴重な資料とすることができた。さらにこれらについて2度にわたり報告会を行ない、地元の方たちに研究成果を公開した。

研究成果の概要（英文）：In this study, with help from native islanders and the Hachijo Town Board of Education, I investigated the everyday importance of the Hachijo dialect names of 446 vocabulary items related to flora and fauna at all the five Hachijo localities, and compiled a report Flora and Fauna Vocabulary in the Hachijo Language, all the items fully illustrated with color photographs. Also, I created a captioned video of three folktales, Kakezara, Tanabata-sama and Hitosuteana, spoken in the subdialects of the five localities, whose DVDs I have distributed to all relevant persons and institutions. Through the help I got from local people I have reconfirmed the value of the Hachijo language. Additionally, I have written a 'Hachijo grammar for every one' book of the local dialect.

研究分野：日本語学

キーワード：八丈語 民話 方言語彙 文法

## 1. 研究開始当初の背景

2009年に行なわれた「ユネスコの発表」以来、八丈町においても八丈語の記録保存継承についての意識が高まり、町の教育委員会が中心になって学校教育などのなかでさまざまな取り組みをおこなってきた。しかし、予算的、人的な限界もあって、思い描くような対策、対応が取れなかったというのが現実であったと思われる。そうした中であっても、八丈語の話者は年々確実に減少を続け、それによって八丈語の濃度も徐々に薄められ、まさに消滅の危機に瀕した状態が深刻さを増していた。

研究代表者の八丈語に対するこれまでの取り組みを背景に、地元住民や教育委員会の熱意も相まって、地元の人たちと共同作業をおこないながら八丈語の記録保存活動をおこなうという体制ができあがった。

## 2. 研究の目的

八丈語は奈良時代の関東周辺で使用された古風な日本語の姿を現代にとどめるきわめて貴重な言語である。現在、八丈語の母語話者は急速に減少しており、いまここでしっかりとした対応をとらなければ、この貴重な言語はそう遠くない時期に確実に消滅するだろう。八丈語の保存継承は地元で暮らす人たちのアイデンティティの確かな継承を支えるだけでなく、今後の日本語研究や日本語史研究にとってもきわめて重要な意味を持つ。

本研究は、2009年にユネスコが示した消滅の危機にある言語としての八丈語の総合的な保存継承を目的として、保存のために幅広い分野の言語資料を収集して電子化し、継承のためにももに学校教育等で活用するための文法教科書や教材を開発する。また、過去に作成された語彙集などを最大限活用して語彙数を増やししながら、詳細な記述を加えた方言辞典を編纂するための基礎を形成する。

## 3. 研究の方法

八丈語による民話や談話などを5地区の音声や映像で記録する。八丈町は旧5か村からなるが、地区ごとに発音が明確に異なり、大きく3地区に分類される。これまでも民話などの音声・映像記録はあったが、その分量の多くは代表者が過去に記録してきた八丈町三根地区のものに大きくかたよっていた。これらの記録をもとにして、そのほかの地区の発音でも記録することで、全体的に地域的なバランスのとれた音声映像資料にする。

具体的には、島に伝わってきたさまざまな民話を自由にそらんじることのできる話者もはやほとんどいないと思われるので、既存の三根地区の民話を他地区の表現に修正し、それをその地区の話者に語ってもらい、音声や映像として保存する。

こうした電子化データは、気軽に、だれにでもかんたんに利用できるようにしておくことがきわめて重要であるので、この点についても十分な配慮、検討をおこなう。

同時に、八丈語辞典の編纂に着手する。この土台となるデータは、既刊の方言集や民話、談話の資料から作成するが、このほかに、協力者の當山が中心となって動植物の方言名などを、映像を使用して現物を確認しながら、その用途などもふくめて語彙記述を豊かにしていく。また、和田が中心となって民俗語彙の収集と意味記述をおこなう。

辞典に収録される語彙については、分担者の狩俣が中心となって行われている琉球諸語研究の膨大な成果にならないながら、すべての語彙と例文を5地区の音声で記録する。

## 4. 研究成果

本科研では八丈町民と八丈町教育委員会の協力を得ながら、八丈町内5地区で、動植物語彙を中心に446項目について、映像を見ながら地区ごとの方言名、生活のなかでの役割等について調査し、全項目カラー写真付きの『八丈語の動植物語彙調査報告書』を作成して、話者や学校、図書館などの各所に配布した。

また、八丈町内5地区の方言による民話(「欠け皿」「たなばたさま」「人捨て穴」)の字幕付き動画を、地区によっては複数作成し、町教育委員会の協力を得ながらDVDにして話者や学校、図書館などの各所に配布した。

また、八丈の生活文化において重要な位置を占めるサトイモについて、方言的な意味合いを越えた多角的な分析を試みた。

語彙調査や録画作成には地元の方たちの協力を得ることで八丈語の価値を再確認してもらう

ことができた。また、簡易版の方言文法書を作成した。

ユネスコにより消滅の危機に瀕した言語とされた八丈語の記録保存継承作業は重要な意味を持つ。本科研では動植物語彙の方言名だけでなく生活のなかでの役割なども詳細に記録することで、血の通った生きた方言として後世に伝えていくべき資料とした。また、これまで1地区のみだった民話資料について、島内5地区の方言で動画を作成し、記録保存継承の貴重な資料とすることができたが、これらの作業を通して、地域住民の方たちの「消滅の危機に瀕した八丈語」に対する意識を高めることができた。さらにこれらについて2度にわたり現地で成果報告会を行ない、地元の方たちに研究成果を公開した。

今回の成果は、八丈語の記録保存継承の活動の一步であり、これらの研究成果をもとにしつつ、八丈語の記録保存継承の活動を、研究者と地元の人たちが協力しながら今後さらに推し進めていく必要がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 81
2. 論文標題 音声談話資料を用いた言語継承活動への取り組み 八丈語による紙芝居を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 東京都八丈島三根方言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科研報告書『全国方言文法辞典資料集(5) 活用体系(4)』	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 10
2. 論文標題 東京都八丈島末吉方言の動詞活用体系試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 首都圏方言の研究	6. 最初と最後の頁 39 - 48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 MIKI, Yosuke	4. 巻 7号
2. 論文標題 Kamishibai in Dialect - Aiming to inherit the endangered Hachijo-shima dialect	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Amfiteater Journal. Slovenian Theatre Institute	6. 最初と最後の頁 84 - 98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 八丈語が保存する古代性と新しい変化 二格とイー格の使い分けを例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ブラジル日本研究国際学会論文集	6. 最初と最後の頁 811-836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三樹陽介	4. 巻 81号
2. 論文標題 音声談話資料を用いた言語継承活動への取り組み 八丈語による紙芝居を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田健	4. 巻 259
2. 論文標題 八丈島の多様な文化を感じさせる里芋の話 (前編)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊 しま	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田健	4. 巻 260
2. 論文標題 八丈島の多様な文化を感じさせる里芋の話 (後編)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 しま	6. 最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 MIKI, Yosuke
2. 発表標題 Kamishibai in Diarect- Aiming to inherit the Hachijojima dialect endangered by extinction-
3. 学会等名 International Symposium "The Art of Kamishibai" -The Word of the Image and the Image of the Word- (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語三根方言の人称・指示代名詞の複数と階層性
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MIKI, Yosuke
2. 発表標題 Investigation of a strategy to convey Hachijoan which is an Endangered language to the next generation.
3. 学会等名 Dialogue for Peace (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 日本語の方言文法の記述の精緻化を目指して 八丈語の代名詞を例に
3. 学会等名 ブラジル日本研究国際学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の文法体系記述の精緻化
3. 学会等名 国際都市言語学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 八丈語の動詞形態論 古層の保持と変化
3. 学会等名 シンポジウム「フィールドと文献から見る日琉諸語の系統と歴史」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KANEDA, Akihiro & Martin HOLDA
2. 発表標題 Hachijo and South Ryukyuan languages and East Northeast Japan dialects from the viewpoint of the concentric circle theory of dialect divergence
3. 学会等名 Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia:Description, Documentation and Revitalization (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 八丈語・東日本方言と南琉球諸語 - - 周圏分布的視点から - -
3. 学会等名 類型学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語三根方言の指示詞・代名詞
3. 学会等名 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」平成29年度第2回研究発表会（於国立国語研究所）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MIKI Yosuke
2. 発表標題 “ Exploring the Possibility of Utilizing the “ Picture-Story Show ” Method to Inherit an Endangered Language: The Case of Hachijoan ”
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 MIKI Yosuke
2. 発表標題 “ Application of speech discourse material to language succession activity - Efforts at Hachijo Island “
3. 学会等名 The 15th Urban Language Seminar and the 2nd Symposium on the Dynamics of Putonghua , ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語の格・情報構造 形容詞構文における与格交替 -
3. 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成 令和2年度 第1回オンライン研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈町における方言継承の取り組み 研究者にできることは何か
3. 学会等名 実践方言研究会 第6回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三樹陽介
2. 発表標題 八丈語のあまり知られてない特徴の再発見
3. 学会等名 第10回八丈方言講座「八丈語の保存継承のための総合研究」最終報告会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 三樹陽介、茂手木清、金田章宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 306 ( pp. 181-202 )
3. 書名 『実践方言学講座2』「地域の行政との連携による方言継承支援活動」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	和田 健  (WADA Ken)  (20292485)	千葉大学・大学院国際学術研究院・教授   (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三樹 陽介  (MIKI Yosuke)  (40614889)	駒澤大学・文学部・講師    (32617)	
研究分担者	狩俣 繁久  (KARIMATA Shigehisa)  (50224712)	琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授    (18001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関